

経営方針のアップデート

～企業価値向上に向けた業務資本提携とコア事業成長戦略～

株式会社エルテス（証券コード 3967）

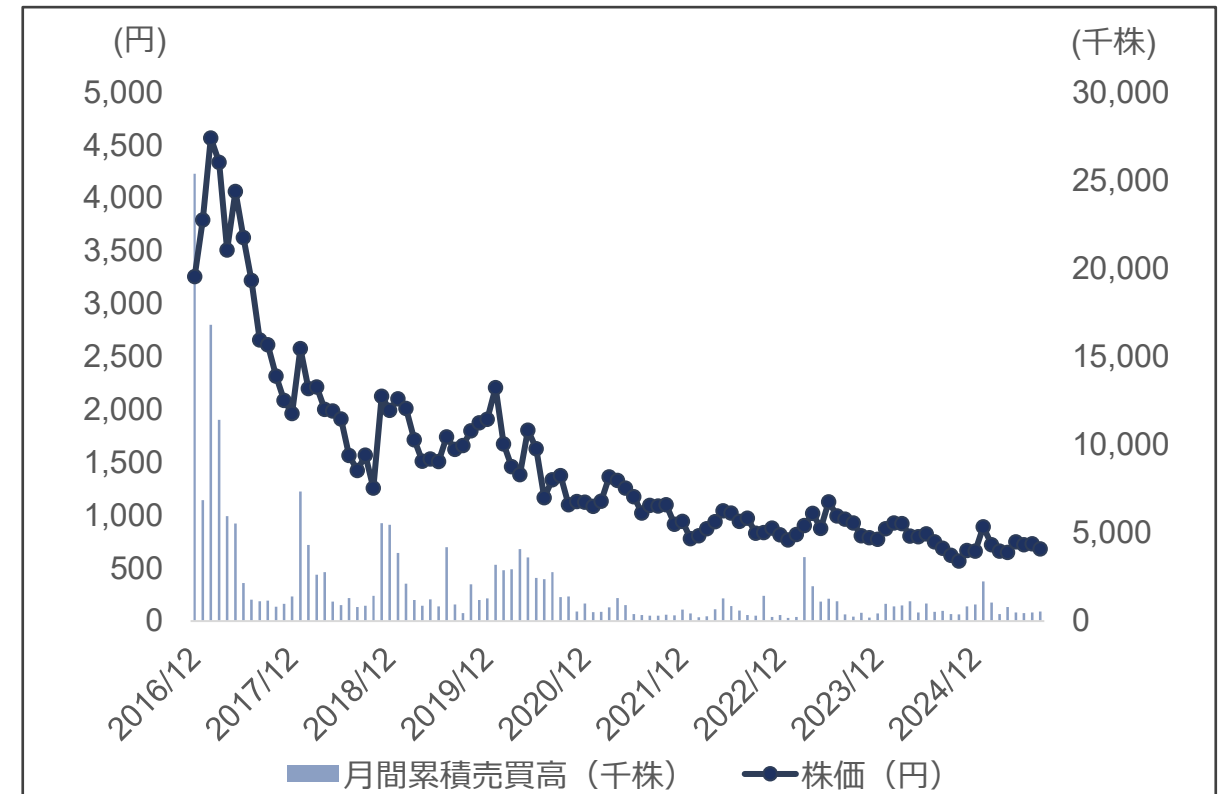
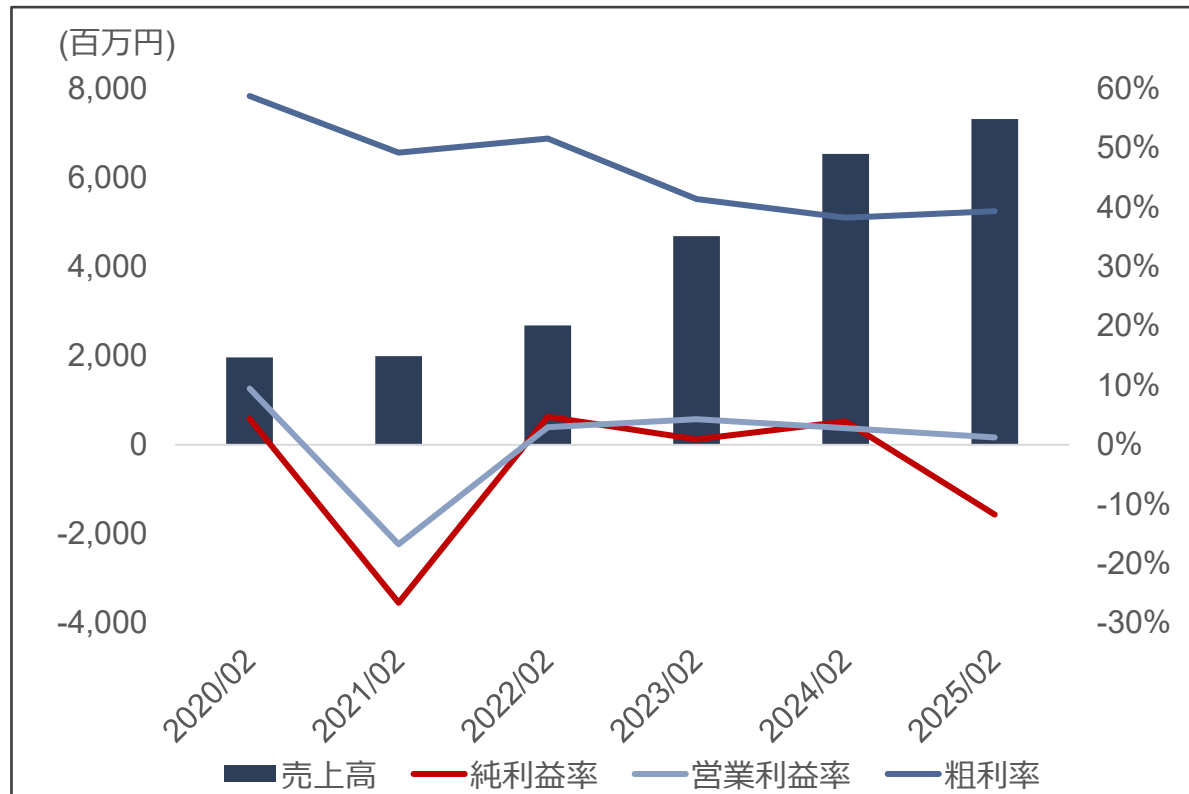
2025年12月11日

1

経営方針のアップデート



- ▶ 売上高は右肩上がりの成長も、粗利率は低下し、営業利益率も低迷。子会社業績が純利益にも影響
- ▶ 結果として、時価総額は右肩下がり、ピーク時の200億円台から40億円台を推移
- ▶ 東証グロース市場改革もあり、2030年までに時価総額100億円超への変革が急務



社内アクティビストチームの組成

～アクティビストや機関投資家が求める株主価値向上の目線で経営戦略を検討/実行～

01

社内アクティビストチーム（経営戦略本部経営企画部）による投資家目線の徹底

- 積極的な投資家との対話（IR活動の強化）

02

資本コスト・資本収益性を意識した経営方針

- ROE、営業利益率、EPSの継続成長率を軸にした経営戦略の策定
- 財務戦略（ファイナンスとキャピタルアロケーション/資本コスト低減のための取り組み）の再検討

03

収益性の高いデジタルリスク事業をコア事業にした成長戦略の策定

- 独自性、収益性の観点からポートフォリオ戦略の見直し
- 成長性高い内部脅威検知サービス（IRI）を軸にした継続成長の実現性高い事業計画へ

—— 公表どおりに今回経営方針のアップデートを実施 ——

多角化して凡庸化した部分を思い切って**再構築（撤退・縮小）**し、 エンブラ向けリカーリング収益中心の独自性・優位性のあるコア事業中心の **デジタルリスク／セキュリティ銘柄**として市場から**再評価・認識**されることを目指す。

なぜ株価が 低いのか？

- ・多角化したことで何の会社かわかりにくくなっている
- ・独自性・優位性のある高利益・高成長・市場シェアNo.1[※]の「宝」事業（IRI）があるのに隠れてしまっている（隠れセキュリティ銘柄）
- ・エンブラ向けのリカーリング収益中心で強固な基盤のコア事業があるのに、他のセグメントが利益率を押し下げて凡庸な会社に見えてしまう
- ・減損処理や業績の下方修正も頻発し市場からの信頼・注目が低下

これらが解消すれば・・・

こうすれば 株価上がるはず

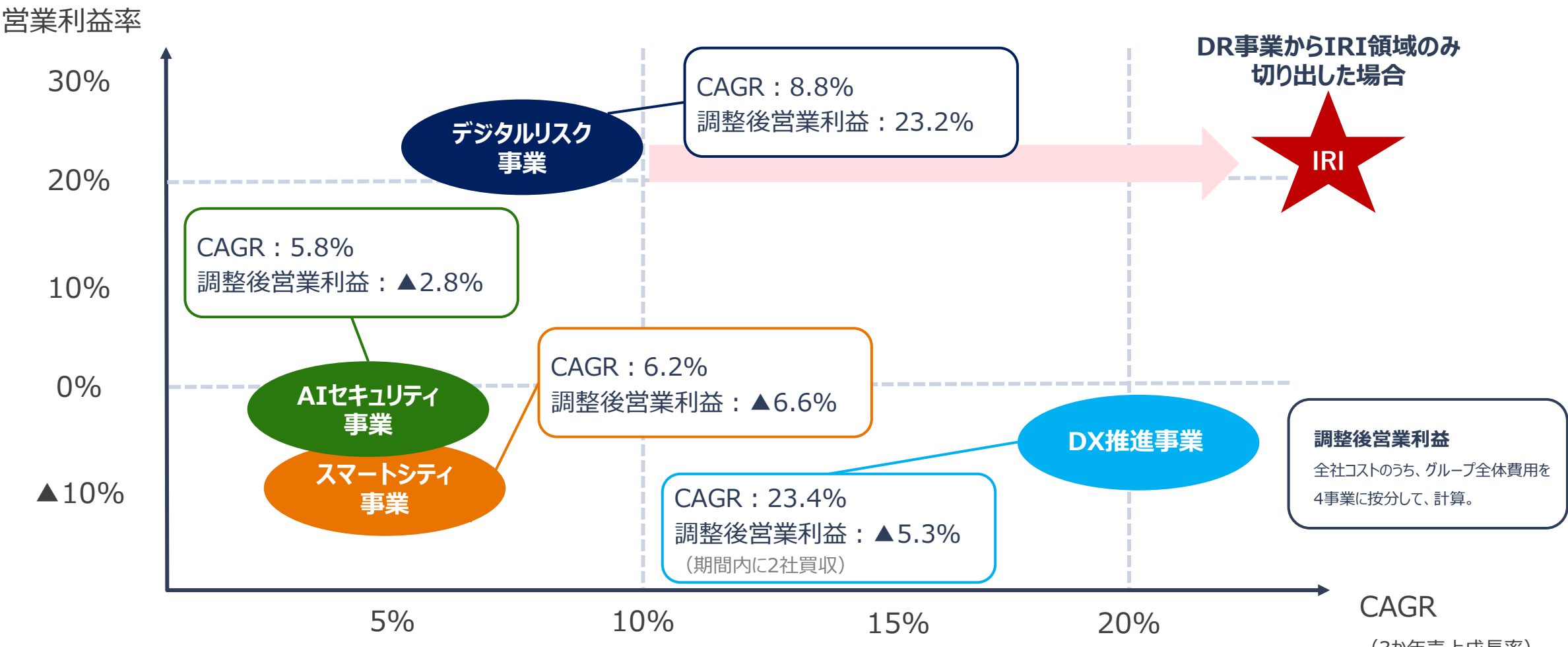
- ・デジタルリスク／セキュリティ領域に特化したセキュリティ銘柄としてリブランド
- ・ソーシャルリスク領域も炎上に加えて認知・情報戦対策にも拡張
- ・市場シェアNo.1（UEBA運用監視サービス市場）[※]のIRIの事業成長をさらに加速して強化
- ・赤字セグメントからの撤退・売却を実行し、全社利益率を向上（特に四半期の下期偏重要素の大きい事業からの撤退は急務）
- ・予実管理や計画策定の精度を上げるとともに、エンブラ向けリカーリング収益中心のコア事業に集中することで利益のボラティリティを排除

※出典：ITR「ITR Market View：エンドポイント・セキュリティ対策型／情報漏洩対策型SOCサービス市場 2025」UEBA運用監視サービス市場：ベンダー別売上金額シェア（2024年度）

デジタルリスク事業の収益性の高さが際立つ

特にIRI領域[※]は、CAGRは25.0%と高い成長を誇る

※デジタルリスク事業の中の内部脅威検知サービス（IRI）を中心としたインターナルリスク領域



注力施策①

ポートフォリオ戦略の実行

注力施策②

収益性高いデジタルリスク事業（コア事業）の事業成長
(DR事業)

注力施策③

市場との対話（IR）を強化

収益性（営業利益率）の向上、資本効率（ROE/ROA）の改善

2

企業価値向上に向けた 注力施策



企業価値向上に向けた、**変革の実行支援パートナーとして、** ポートフォリオ戦略の実行支援の経験豊富な**グロースパートナーズ社と業務資本提携**



- ① ポートフォリオ戦略の検討実行支援
- ② 財務戦略（BSマネジメント）の策定実行支援
- ③ 経営管理体制の強化
- ④ DR事業の事業成長支援
- ⑤ IRのアドバイス等

業務資本提携の交渉の中で
社内合意したポートフォリオ再編を一気に推進
新たな経営方針の実行フェーズに移行

代表：古川徳厚氏



2007～10年：マッキンゼー・アンド・カンパニー・
インク・ジャパン

2010～22年：アドバンテッジパートナーズ/
アドバンテッジアドバイザーズ

2022年～：グロースパートナーズ

<アドバンテッジパートナーズ/アドバンテッジアドバイザーズ>

- ・ 2017年取締役・上場企業成長支援プライベート投資ファンド責任者就任、
2020年パートナー就任、2020年AP Executive Committeeメンバー就任
- ・ インフレクション2号ファンド、AA成長支援ファンドの投資責任者として、約800億
円のファンド運用に従事し、過去40件、累計1,000億円の投資実行実績
- ・ 上場企業への出資も30社に行い、成長戦略の策定・追加買収・海外展開・新
規事業拡大・オペレーション改善・コスト削減・経営管理の高度化などを支援

<グロースパートナーズ>

- ・ 10社超の上場・未上場企業への投資及びハンズオン支援を実施

社内アクティビスト活動の実行支援サポートを想定

エルテスに取り組むべき課題

重要課題①

ポートフォリオ戦略の実行

重要課題②

財務戦略策定実行・バランスシートマネジメント

重要課題③

DR事業（コア事業）のシェア拡大

重要課題④

企業価値向上を意識したマネジメントの意思決定

グロースパートナーズ社実行支援

事業売却等の豊富な実行支援経験
新規M & Aの検討実行支援経験

財務戦略策定・バランスシートマネジメントへの知見

中長期の事業管理体制の構築経験

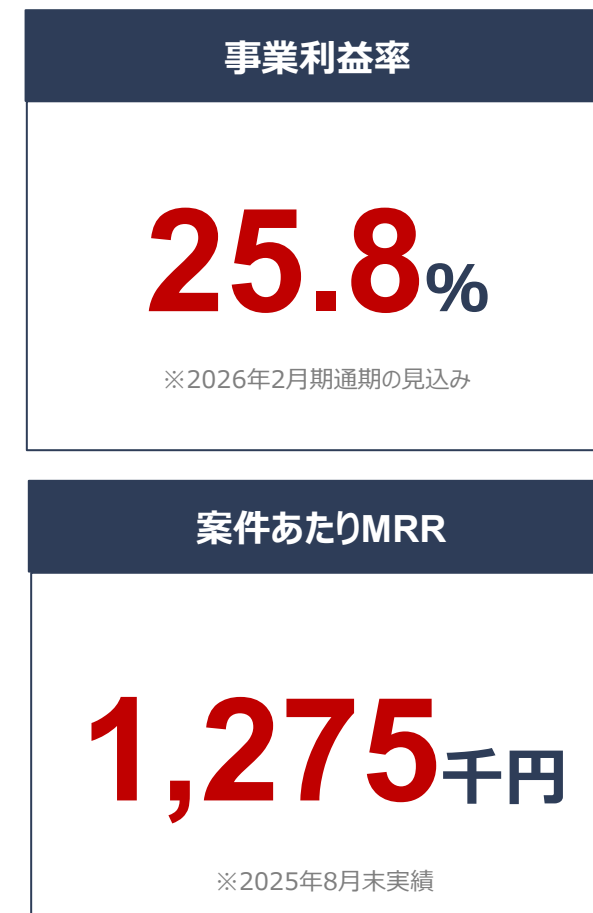
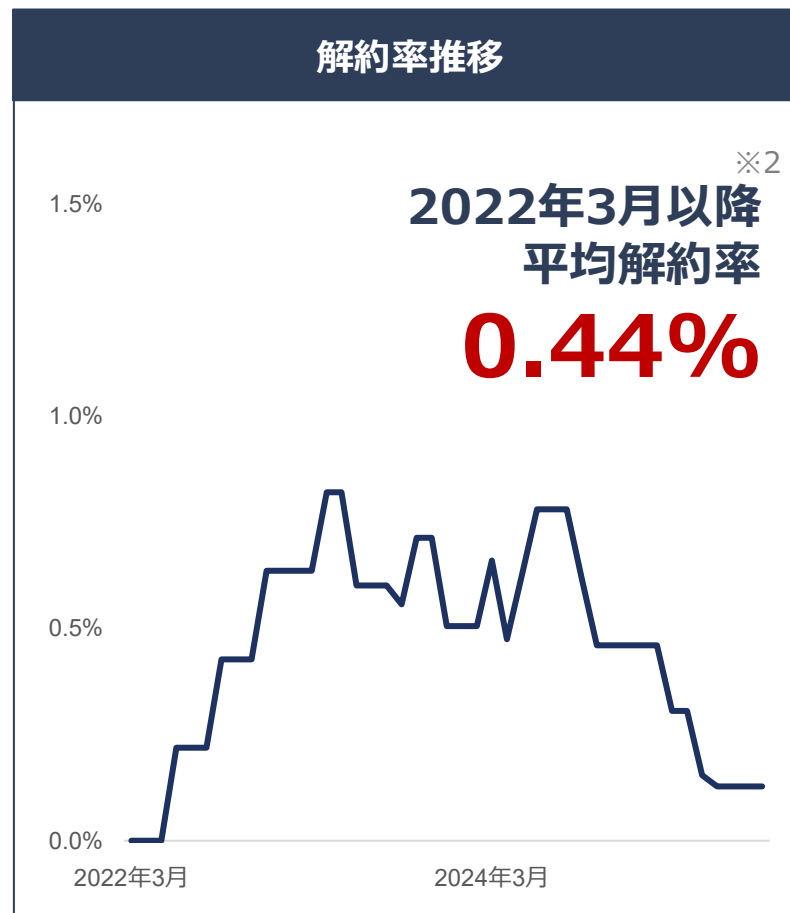
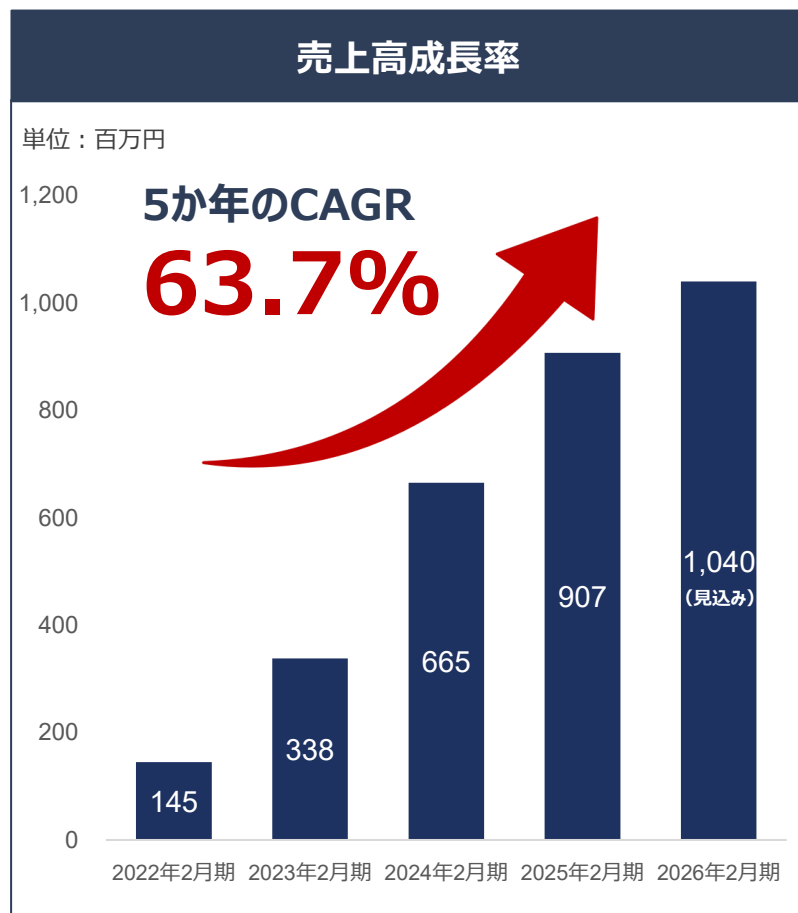
投資家目線での経営陣・幹部との対話

時価総額100億円達成を条件とした、新株予約権も発行し、ともに達成を目指す

資金調達で得る約3億円は、デジタルリスク事業の成長投資に充当予定
既発行の新株予約権の譲渡も組み合わせることで、希薄化を可能な限り回避

	第9回新株予約権【譲渡】	第10回新株予約権（新規）	第11回新株予約権（新規）
割当先	グロースパートナーズ投資組合		
資金調達予定額	126百万円	約120百万円	約50百万円
行使価額	652円	631円 (直前1ヵ月平均)	900円
発行日	発行済	12月29日	
行使期間	～2031年8月まで	2026年12月～2030年12月	2028年12月～2030年12月
条件	—	—	時価総額100億円（株価1,500円水準） 達成で行使可能

リカーリング収益のIRIは、高成長・高利益率・低解約率で市場シェアNo.1、
市場拡大とともに伸びしろも大きい。 ※1



※1出典：ITR「ITR Market View：エンドポイント・セキュリティ対策型／情報漏洩対策型SOCサービス市場 2025」UEBA運用監視サービス市場：ベンダー別売上金額シェア（2024年度）
※2 毎月の継続案件数に対する解約率を、過去12ヶ月平均で算出

内部脅威検知サービス（IRI）の市場余地は大きい

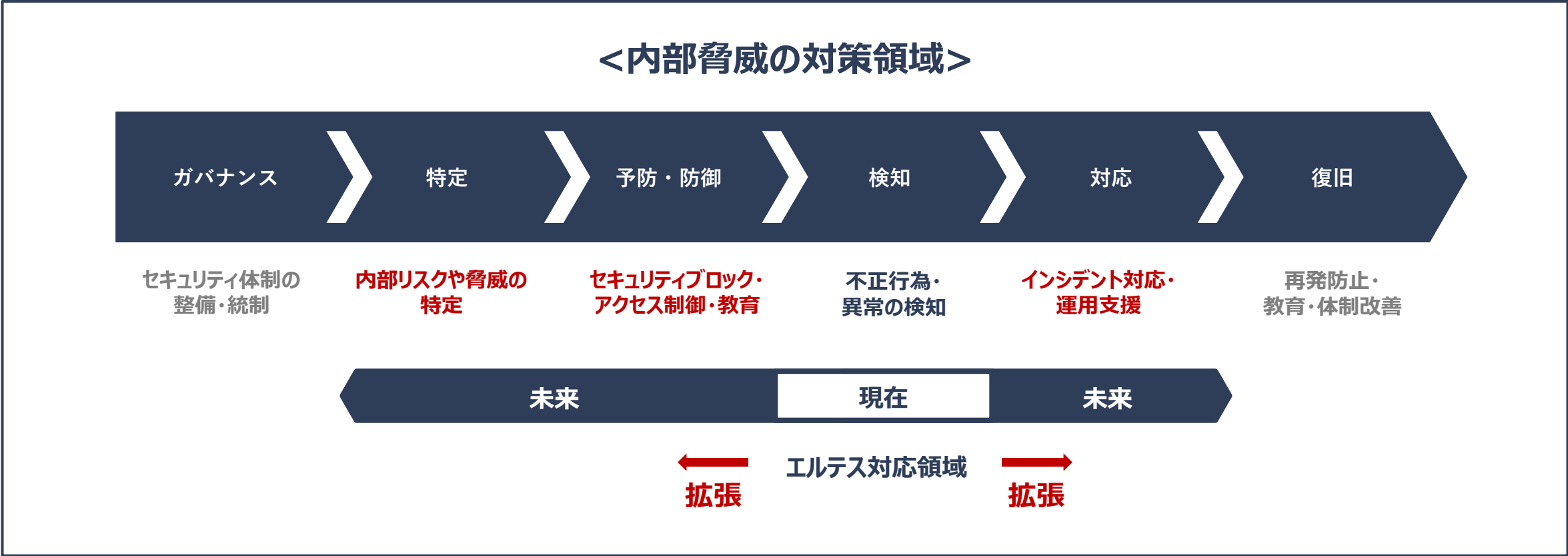
市場規模



市場環境



内部脅威の「検知」をコアに、
周辺領域への展開でマーケットリーダーを目指す。



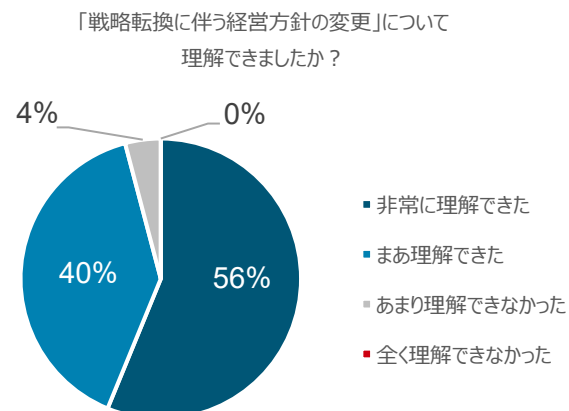
社内アクティビスト
チーム組成

～

2025年11月

第2四半期決算開示日に
社内決算説明会の開催

業績の進捗状況、経営方針のアップデートについて
従業員への説明会を実施



YouTubeチャンネル
「1UP投資部屋」への出演

第2四半期決算の概要と、
今後の企業価値向上に向けた取り組みを説明



<https://eltes.co.jp/news/20251104>

日経ビジネスに掲載

社内アクティビストの取り組みに関するインタビュー掲載



<https://eltes.co.jp/news/20251125>

これから

社内アクティビストチームによるさらなる情報発信の強化









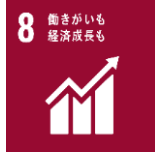

YouTube、IRイベントへの積極的な参加、IRページの情報拡充や更新性の強化に加えて、
従業員に対する市場理解ワークショップの実施、経営陣・幹部を含む従業員に対するインセンティブ設計を検討

3

Appendix



エルテスは、テクノロジーと人の力を融合し、 社会課題を解決する持続可能な基盤づくりに取り組んでいます。

取り組み	詳細アクション	関連するゴール
安全な社会の基盤構築	<ul style="list-style-type: none"> SNSに起因した社会問題への対処による安全なデジタル基盤の構築 警備保障サービスを安全・安心・迅速に提供するための支援 安全・快適・有効なスマートシティ化による地方創生支援 	  
協働による 課題解決と社会づくり	<ul style="list-style-type: none"> 少子高齢化や過疎化によって課題を抱える自治体へのDX支援 行政DX、警備保障、デジタルリスク対策の総合マネジメントソリューションへの挑戦 	 
技術革新による 社会インフラの最適化	<ul style="list-style-type: none"> デジタルプロダクトの創出による警備業界・不動産業界の変革に挑戦 行政サービスのデジタル化で自治体が抱える課題を最適化 	 
働きがいと人的資本の最大化	<ul style="list-style-type: none"> 従業員の教育・研修による高度なセキュリティ・DX人材の創出 業界活性化のための女性活躍促進を含む人材の採用・育成 リモート勤務や地方での雇用など柔軟な働き方の実現 	  

会 社 名	株式会社エルテス （ 英語表記： Eltes Co., Ltd ）					
創 業	2004年4月28日					
資 本 金	1,270百万円（2025年8月末時点）					
所 在 地	本 店	岩手県紫波郡紫波町紫波中央駅前2-3-94 オガールベース内				
	東 京 本 社	東京都千代田区霞が関3-2-5 霞が関ビルディング6階				
従業員数	472 名（2025年8月末時点・連結）					
上場市場	東京証券取引所グロース（証券コード 3967）					
役 員	代表取締役	菅原 貴弘	取締役	伊藤 豊		
	取締役	三川 剛	社外取締役	篠地 里百合		
	監査役	宮崎 園子	監査役	本橋 広行	監査役	高橋 宜治
連結子会社	株式会社AIK		株式会社And Security		ISA株式会社	
	SSS株式会社		東和警備株式会社		株式会社JAPANDX	
	株式会社GloLing		プレイネクストラボ株式会社		JDXソリューションズ株式会社	
	アクター株式会社		株式会社イーリアルティ		株式会社エルテスキャピタル	
取得認証	JIS Q 27001:2023 (ISO/IEC 27001:2022) No. C2025-01704					
	JIP-ISMS517-1.0 (ISO/IEC 27017:2015) No. C2025-01705					

事業内容

デジタルリスク事業

- 24時間365日体制でモニタリングし、リスクを早期検知するリスクモニタリング
- Webレピュテーションリスクのコンサルティング
- 企業のPCログ等の解析によって、情報漏洩や労務リスクなどの内部脅威検知

AIセキュリティ事業

- 警備業務のDX化を支援するDXプロダクト「AIKシリーズ」の開発・提供
- 安全・安心を提供する警備保障サービス

DX推進事業

- 自治体住民向け行政サービスのデジタル化支援
- SESとラボ型開発のハイブリッドによるクライアントニーズに沿ったDX支援

スマートシティ事業

- 不動産管理業務のDX化ソリューション開発・提供
- プロパティ・マネジメントサービスの提供
- エストニアのサイバネティカ社と連携したデータ連携プラットフォーム構築

オフィス環境

| Entrance



| Meeting Room



| Work Space



免責事項



- 本書には、当社に関連する見通し、将来に関する計画、経営目標などが記載されています。これらの将来の見通しに関する記述は、将来の事象や動向に関する現時点での仮定に基づくものであり、当該仮定が必ずしも正確であるという保証はありません。様々な要因により、実際の業績が本書の記載と異なる可能性があります。
- 別段の記載がない限り、本書に記載されている財務データは日本において一般に認められている会計原則に従って表示されています。
- 当社は、将来の事象などの発生にかかわらず、既に行っております今後の見通しに関する発表等につき、開示規則により求められる場合を除き、必ずしも修正するとは限りません。
- 当社以外の会社に関する情報は、一般に公知の情報に依拠しています。
- 本書は、いかなる有価証券の取得の申込みの勧誘、売付けの申込み又は買付けの申込みの勧誘（以下「勧誘行為」という。）を構成するものでも、勧誘行為を行うためのものでもなく、いかなる契約、義務の根拠となり得るものでもありません。

【お問合せ先】株式会社エルテス IR担当E-mail: ir@eltes.co.jp